

眼球突出を伴ったフェレットの眼窩内腺癌の1例

三輪恭嗣[†] 藤田 淳 加藤久美子 内田和幸
中山裕之 佐々木伸雄

東京大学農学部 (〒113h8657 文京区弥生1h1h1)

(2008年5月21日受付・2009年1月13日受理)

要 約

4歳3カ月齢の去勢雄フェレットが左眼球突出を主訴に来院した。臨床徴候および検査所見から眼窩内に発生した腫瘤により左眼球が突出したと判断し、眼球摘出術および眼窩内搔爬術を実施した。摘出した腫瘤の病理組織学的検査では、腫瘍細胞が一部で小管腔を形成し、さまざまな形態で増殖していた。免疫染色により腫瘍細胞はPan Keratin NSEに陽性、Vimentin、Desminに陰性であり、上皮細胞に由来する腫瘍と判断された。症例は術後6カ月後に斃死し、剖検では左側嗅球から前頭葉に腫瘤形成が認められた。組織学的には生検組織と同様、分泌物産生を伴う腫瘍細胞の小管腔形成増殖がみられ腺癌と診断されたが、その原発組織の特定には至らなかった。

——キーワード：フェレット，眼球突出，眼窩内腺癌。

----- 日獣会誌 62, 641～644 (2009)

[†] 連絡責任者：三輪恭嗣 (東京大学農学部附属動物医療センター)

〒113-8657 文京区弥生1-1-1 ☎03-5841-5420 FAX 03-5841-8996 E-mail: miwayasutsugu@hotmail.com